

News Release

第5回「食品産業もったいない大賞」受賞者の決定について 表彰式・事例発表会の開催について

一般社団法人日本有機資源協会は、第5回「食品産業もったいない大賞」の農林水産大臣賞、食料産業局長賞、食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞の受賞者を決定いたしました。

また、受賞者の表彰式とそれらの事例発表会を平成30年1月24日(水)に豊洲シビックセンターホールにおいて開催いたします。

表彰式・事例発表会は公開です。

1. 表彰の概要

本表彰制度は、食品産業の持続可能な発展に向け、環境対策の一環でもある「エネルギー・CO2削減」、「廃棄量削減・再生利用」、「教育・普及(消費者に最も身近な“食品”を通してこれらの啓発を促す)」等の観点から、顕著な実績を挙げている食品関連事業者並びに食品産業によるこうした取組を促進・支援している企業、団体及び個人を広く表彰し、世の中に周知することで、地球温暖化・省エネルギー対策を促進する取組を推進します。

東日本大震災を契機に見直されている「もったいない」の思いこそが、地球温暖化・省エネルギー対策を取り組む大きな契機となるため、これを大賞の冠名としています。

本表彰は、農林水産省が協賛、環境省及び消費者庁が後援しています。

2. 受賞者の内容

【農林水産大臣賞 (1点)】

○ユニー株式会社

「食品リサイクルループは命をつなぐ環」

持続可能な社会に向けて総合的な視点による廃棄物の削減、CO2削減、省エネルギー対策など、「環境にやさしいお買い物で、地球を守る」活動を消費者と一緒に推進している。

2007年から地域の再生利用事業者、農業生産者とのパートナーシップを基に全国最多の食品リサイクルループを構築しており、ループにより生産した農畜産物は地域循環型農業で作られた安全安心なものとして提供している。また、レジ袋使用削減や、使用済み容器包装の店頭回収など、容器包装の3Rで地球温暖化防止にも努めている。そして、消費者と生産者を繋ぐことも小売事業者の役割と考え、農業体験や交流会を定期的で開催しており、特に次世代を担う子どもたちには、「私たちはいきものの命をいただいて生きている」を学ぶ環境教育や食育を行っている。

○北海道美幌高等学校

「規格外野菜を用いた循環型養豚経営の構築」

「町を元気にしたい」と願う高校生が、美幌町の特産品であるじゃがいもの規格外品などを有効活用するため、発酵乾燥飼料の開発・製造を行い、これを使用した養豚飼育体系を確立した。これを機に地元のさまざまな事業者と連携して合同会社を立ち上げ、企画・運営に参画するとともに、生産した豚肉を用いた新商品を開発し、地元飲食店でメニュー化を進めている。また、地元の園児や小学生を招いた収穫体験等を通じ、循環型養豚への理解醸成や食文化の定着を図るなど、地域社会の活性化に貢献している。

○三菱食品株式会社

「製・配・販連携によるサプライチェーン全体の効率化活動」

個社単位での物流の効率性追求に限界が見えてきた中で、複数メーカーの納品状況の見える化や共同物流の発注量のコントロール等によって配送の効率化を図ることにより配送車両を削減し、省エネルギー・温室効果ガス削減に寄与している。また、各社の垣根を超えた高度な情報共有をルール化することにより、製・配・販の連携が図られ、食品ロスの削減にも寄与している。

○ミナミ産業株式会社

「おから無排出化による資源の有効活用」

おからの大半が廃棄物として処理されている中で、ミナミ産業は大豆の微粉碎加工と乳化混合の技術を独自に開発し、おからの排出をほぼなくし、廃棄物削減、環境負荷の軽減に寄与している。また、この技術により当日の需要に合わせて豆腐を製造できるため、原材料のロスや余剰製品の廃棄率の低下、販売の機会ロスが低減されている。

【食品産業もつたいない大賞審査委員会委員長賞（6点）】

受賞五十音順

○伊賀の里モクモク手づくりファーム

「6次産業を活かした食農体験施設を軸とした『できるかぎりやさしさ宣言』」

可能な限りごみゼロを目指して資源の有効活用に向けた様々な工夫に取り組み、地産地消による循環型農業を中心とした食農体験型エコロジーファームを確立した。規格外の農作物はジャム等の加工品やレストランで提供するとともに、加工時に発生するおからやビール粕は畜糞に混ぜて堆肥化し直営農場と地元農家で使用されている。ハウス栽培の加温には地元間伐材を利用したバイオマス固形燃料を使用することによりCO2削減に寄与している。

○井村屋グループ株式会社

「エコジカルはエコミカル！～木質バイオマスボイラー導入などCO2削減活動を含む環境マネジメント～」

ボイラーの熱源に木質バイオマスを導入して天然ガス使用量を削減するとともに、ノンフロン・高効率の大型冷凍機を使用した複合冷凍施設の導入によりCO2を削減した。また、倉庫の荷物の自動出し入れ、商品の自動積み込み、冷凍庫に併設された社員食堂にはオール電化の厨房設備等を設置するなど、エネルギーマネジメントを見直すことにより、省エネルギー、温室効果ガス削減を実現した。さらに、地域の原材料使用の推進や規格外商品を販売するなど食品ロス削減に取り組んでいる。

○日進乳業株式会社 アルプス工場

「中小企業における電力使用量削減などの省エネルギーの取組」

中小企業の省エネ推進においては設備投資などコスト面での課題がある中、エコアクション21認証取得を機に、①定量的な測定に基づく機器の設定の最適化による電力使用量及びLPガス使用量の削減、②廃棄物の分別の細分化による有価資源の回収と販売、③節水による総排水量の削減などに取り組んでいる。また、省エネ診断を基にした改善工事を社内でアレンジをして内製化することでコストの削減を図るとともに、社員にアイデアを募るなど社員一丸となる環境を整え、維持改善することにより全体的な環境対策に取り組んでいる。その他、地元小学校や団体などの生産ラインの見学受入れ時にはエコアクション21の活動について説明を行っている。

○日本マクドナルド株式会社

「PDCAシステム活用による省エネルギーシステム」

日常の使用エネルギーを最適化するにあたり、「投資を伴わない運用上のPDCAサイクル」と「投資を伴うPDCAサイクル」の2つをリンクして機能させることにより、最適な使用エネルギーの確保、使用エネルギーの効率化を図る。

具体的には、①全店舗共通のチェックリストやブランドメンテナンスカレンダー等による設備機器の最適化、②統一ルールに基づく機器の運転時間の最適化、③各店舗の使用エネルギー量を前週・前年・類似店舗等と比較し分析、改善、④本社・本部では各店舗のサポートを実施している。

○株式会社マツザワ

「地元関係者との連携による「摘果りんご」の活用」

これまで廃棄されていた摘果りんごを地域のお土産菓子に利用して生産及び販売をしている。また、JAみなみ信州などと連携し、流通経費を抑えることにより農家の収入の確保に繋げている。

農家、JA、事業者が、それぞれの役割を担うことにより原料の安定的な確保ができ、継続的に資源を有効に活用するとともに廃棄物の削減による環境負荷の軽減に寄与している。

○森永乳業株式会社

「長期保存可能な豆腐の開発及びおからの飼料化」

従来日持ちしなかった豆腐を独自の無菌充填により長期保存できる商品として開発したことにより、贈答品や災害時に備えた備蓄品、海外での販売など新たな市場を創造するとともに、廃棄ロスの減少に繋げている。また、製造時に出たおからを乳酸発酵しサイレージ飼料として商品化しており、東京工場では、この飼料を給与している酪農家からの乳を受け入れている。

受賞についてご連絡・照会先

	受賞者	代表窓口	電話番号
大臣賞	ユニー株式会社	業務本部 CSR部	0587-24-8093
	北海道美幌高等学校	地域資源マテリアル班	0152-73-4136
局長賞	三菱食品株式会社	加食事業本部 商品オフィス	03-3767-8803
	ミナミ産業株式会社	代表取締役 南川 努 氏	059-331-2158
委員長賞	伊賀の里モクモク手づくりファーム	広報	0595-43-0909
	井村屋グループ株式会社	経営・海外事業戦略部	059-234-2146
	日進乳業株式会社 アルプス工場	工務課	0265-82-7100
	日本マクドナルド株式会社	コーポレートリレーション本部 CSR部	03-6911-5750
	株式会社マツザワ	-	0265-35-2333
	森永乳業株式会社	広報部	03-3798-0126

3. 表彰式・事例発表会の日時及び場所

開催日時:平成30年1月24日(水) 13時00分～17時00分(予定)

開催場所:豊洲シビックセンター 5階(東京都江東区豊洲2-2-18)

※時間が変更される場合がございますので、ご了承ください。

※表彰式のみカメラ撮影は可能です。

4. お申し込み

申込用紙にてファックス、もしくはホームページにてお申込みください。

<http://www.jora.jp/mottainai5/index.html>

※報道関係者の皆様へ

報道関係者で取材を希望される方は、「申込用紙」に従い、取材を希望する旨を記載し、ホームページ又はファックスによりお申込みください。その場合、報道関係者である旨を必ず明記してください。また、当日は受付で記者証等の身分証を御提示していただきますのであらかじめ御承知願います。

5. その他

表彰式等の取材に関することは、一般社団法人日本有機資源協会事務局にお問合せください。

農林水産大臣賞、食料産業局長賞、食品産業もつたいない大賞審査委員会委員長賞の受賞結果等については、以下のアドレスから御覧いただけます。

<http://www.jora.jp/mottainai5/index.html>

6. お問い合わせ先

一般社団法人日本有機資源協会 事務局 担当:出越、鈴木、嶋本

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館401

TEL:03-3297-5618 FAX:03-3297-5619 E-mail:mottainai@jora.jp

以上